

歡喜！

シリーズ～詩編～

2015/7/19

# ダビデの逃避行<サムエル記上>

- 24章: エン・ゲティにて。用を足すために洞窟に入ったサウルをダビデは打たず、上着の端を切った
  - 「わたしの主君であり、主が油を注がれた方に、わたしが手をかけ、このようなことをするのを、主は決して許されない。」サムエル記上24:5
- 26章: ジフの荒れ野にて。ダビデは夜中にサウルの陣営に忍び込み、枕元の槍と水差しをた
  - ダビデはアビシャイに言った。「殺してはならない。主が油を注がれた方に手をかければ、罰を受けずには済まない。」26:9

# ダビデの逃避行<サムエル記上>

- 27章：敵地ペリシテのアキシュで1年4ヶ月過ごすユダの町々を襲ったと嘘をついてペリシテの町々を攻撃していた
- 29・30章：ペリシテの連合軍に入れず町に戻るとアマレクによって女子どもと財産が奪われていたダビデはアマレク軍を急追し全てを取り戻した
- 31章：ペリシテとの戦いでサウルは傷つき自害した。息子たちも戦死した。
- ダビデはサウルとヨナタンの死を悼み、「弓」と名付けた哀悼の歌を歌った<サムエル記下1章>

# 詩編18篇 <危機が去った時に歌った歌>

【指揮者によつて。主の僕の詩。ダビデの詩。主がダビデをすべての敵の手、また、サウルの手から救い出されたとき、彼はこの歌の言葉を主に述べた。】

主よ、わたしの力よ、わたしはあなたを慕う。

主はわたしの岩、砦、逃げ場

わたしの神、大岩、避けどころ

わたしの盾、救いの角、砦の塔。

ほむべき方、主をわたしは呼び求め

敵から救われる。

苦難の中から主を呼び求め

わたしの神に向かつて叫ぶと

その声は神殿に響き

叫びは御前に至り、御耳に届く。

# 詩編18篇〈危機が去った時に歌った歌〉

主は高い天から御手を遣わし  
てわたしをとらえ／大水の中  
から引き上げてくださる。

敵は力があり／わたしを憎む  
者は勝ち誇っているが／なお、  
主はわたしを救い出される。

彼らが攻め寄せる災いの日  
主はわたしの支えとなり

わたしを広い所に導き出し、  
助けとなり／喜び迎えてくだ  
さる。

# 詩編18篇〈危機が去った時に歌った歌〉

主はわたしの正しさに報いて  
くださる。わたしの手の清さに  
応じて返してください。さる。  
わたしは主の道を守り  
わたしの神に背かない。  
わたしは主の裁きをすべて前に  
置き／主の掟を遠ざけない。  
わたしは主に対して無垢であ  
ろうとし／罪から身を守る。  
主はわたしの正しさに応じて  
返してください。御目に対して  
わたしの手は清い。

# 詩編18篇〈危機が去った時に歌った歌〉

主のほかには神はない。神のほか  
に我らの岩はない。

神はわたしに力を帯びさせ

わたしの道を完全にし

わたしの足を鹿のように速くし

高い所に立たせ

手に戦いの技を教え

腕に青銅の弓を引く力を帯び

させてくださる。

あなたは救いの盾をわたしに授け  
右の御手で支えてくださる。

あなたは、自ら降り／わたしを  
強い者としてくださる。

# 祈りは聞かれる

主よ、わたしの力よ、わたしはあなたを慕う。  
主はわたしの岩、砦、逃げ場／わたしの神、大岩、  
避けどころ／わたしの盾、救いの角、砦の塔。  
ほむべき方、主をわたしは呼び求め／敵から救わ  
れる。  
苦難の中から主を呼び求め／わたしの神に向かっ  
て叫ぶと／その声は神殿に響き／叫びは御前に  
至り、御耳に届く。

- “I love You, Lord!”  
－「心の底から愛しています！」
- 主なる神に頼っていれば安全  
－おなじみの表現が列記される
- 「呼び求め」「叫び」は届く  
－主は祈りを聞いておられる
- 「困難＞祈り＞救い」のサイク  
ルが信仰を強くする  
－恵みを忘れない！



# 主の掟に従う者は報われる

主はわたしの正しさに報いてくださる。  
わたしの手の清さに応じて返してください。  
わたしは主の道を守り／わたしの神に背かない。  
わたしは主の裁きをすべて前に置き  
主の掟を遠ざげない。  
わたしは主に対して無垢であらうとし  
罪から身を守る。  
主はわたしの正しさに応じて返してください。  
御目に対してわたしの手は清い。

- サウルの命を2度救ったダビデ
  - － 家臣はサウルを殺そうとしたが
- ダビデは自分の確信を貫いた
  - － 主は「正しさに報いてくださる」
- 主は私たちの思いを知り尽くしておられる
  - － 「無垢」(タミーム)“完全”の意
  - － いけにえが「無傷」である

# 主によって強められる(成長する)

主のほかに神はない。神のほかに我らの岩はない。  
神はわたしに力を帯びさせ／わたしの道を完全にし  
わたしの足を鹿のように速くし／高い所に立たせ  
手に戦いの技を教え／腕に青銅の弓を引く力を帯び  
させてくださる。  
あなたは救いの盾をわたしに授け／右の御手で支え  
てくださる。  
あなたは、自ら降り／わたしを強い者としてくださ  
る。

- 武芸者としての成長
  - －「足を鹿のように強く」
  - －「手に戦いの業を教え」
  - －「腕に青銅の弓を引く力を」
- 精神的成長
  - －「胆力(たんりよく)」を身に着けた
  - － 多くの家臣を手に入れ、育てた
- 自分に合わせて指導された
  - －「あなた、自ら降り」＝“謙遜”

# のぞみも消えゆくまでに(新聖歌172)

①のぞみも消えゆくまでに 世のあらしに悩むとき

数えてみよ主のめぐみ なが心は安きをえん

数えてみよ主のめぐみ 数えてみよ主のめぐみ

数えよひとつずつ 数えてみよ主のめぐみ

②主のたまいし十字架を にないきれず沈むとき

数えてみよ主のめぐみ つぶやきなどいかであらん

③世の楽しみ富み知識 なが心をさそうとき

数えてみよ主のめぐみ あまつ国のさちによわん